
晴れの日と雨の日

蓮

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晴れの日と雨の日

【Nコード】

N4719N

【作者名】

蓮

【あらすじ】

出会いはナンパ！？恋に無関心な葵。しかし、そんな葵にも……

これが出会い！？ 1（前書き）

甘くなるのかまだ分かりませんがお願いします。

これが出会い！？ 1

「ねーねーその可愛い子ちゃんたちー俺等と遊ばーよ」

うわーナンパかよ。

よりによってこんな時に。

月曜日はパン屋さんで大好きなドーナツが売られる日。毎週のように通っちゃてるから、店員さんに顔を知られている。

そのドーナツはこの辺では人気。

だからけっこう長い行列。

そしてあたしたちはその行列に並んで、順番が早く回ってきてって楽しみに待っていた。

もちろん、あたしたちはそいつ等に無視をする。

だって面倒じゃん。

下校して私服に着替えてきたからそいつ等はあたしたちが高校生っ

ての分かってんのかなあ。

「あれー無視されてるー
まあいいっか。また後で遊ぼっ
」

そう言ってそいつ等はあたしたちから離れていった。

また後でって。もう会わないから。

「さっき並んでた時に絡んできたやつ等何だったんだろうね?」

この子は沙羅^{さろ}。あたし、葵^{あおい}と同じくらいの背丈。あたしより頭がいい。でも‘力’ならあたしが勝つ。

「あついうやつ等はナンパとしか出来ないんだよ。ていうかこの
ドーナツ美味いっ」

「ナンパしか出来ないって…！ けっこうビドいこと言うね、葵はっ」

「この子の言う通り！ 葵ちゃん？ だっけ？ そんな寂しいこと言わないでさあ〜俺等と遊ぼーよ」

あたしたちはその声のする方へ目を向ける。

そこにはそいつ等がいた。

今噂していたさっきのやつ等。 人数は二人で二人とも短髪。

なんでいる？

そして何故かそいつ等はにやにやと変な笑みを浮かべていた。

これはなんかヤバいかもしれない。
流石のあたしでも気付く。

すると

「痛いっ」

いきなり乱暴に腕を掴まれ、引っ張られる。

「何すんの」

「へ？　だーかーらー遊ぶんだよ」

目の前のそいつとあたしと同じように沙羅の腕を掴んでいるそいつ、二人の顔、どこかで見たことがあるような……ないような……。

これが出会い！？ 2

嗚呼、今日は大好きなドーナツが食べれた、良い日つまり晴れの日だったのに……。

そいつ等の所為で最悪な日、雨の日になってしまった。

そいつ等の所為で……。

「放せ」

「うん？何か言っただろ？」

なんだこいつ。聞こえてるはずなんだけど。

「だーからー放せって言ってるの」

と、言ったと同時に掴まれていた腕を引き、掴まれている方の手でそいつの顔を殴る。もちろんグーで。

隣の沙羅も腕を掴んでいたやつを殴っていた。

「いてえ何すんだよ」

怒っているみたいだ。そりゃそうだ。今から楽しもうとしていたのに殴られたから…ね。

「それはこっちの台詞。」

「そうそう。女の子にこんな風に接したら嫌われちゃうよ!?!?ていうかあんたたち彼女いないでしょ?」

沙羅…怒りが爆発しちゃったかな?

「うるせーよ。さっきから聞いてりゃ…むかつくんだよ!」

さっきあたしの腕を掴んでいたそいつが『むかつくんだよ』と同時に沙羅に殴ろうとしようとしていた。

でも、そいつの望みは叶わなかった。

あたしに加えて沙羅にも殴られたそいつのもとにはもう一人の方の男がいた。

さっき沙羅の腕を掴んでいた人だ。

その男は

「帰ろ」

その一言だけだった。

2発も殴られたほうのそいつは素直にその男に従って帰って行った。

「何なの？あれ」

沙羅はかなり怒っているみたいだ。

「さあーでも、さっきの二人どっかで見たことない？」

どっかで見たことがあるようなあ。

「はっ？いつ？どこで？」

やはり沙羅はかなり怒っているみたいだ。

「だよ。人違いだよ。」

でも、やっぱりどこかで……

そういえば沙羅を掴んでいた人、『帰ろ』の一言しか話していないし、殴られた筈なのに殴り返そうとしない。

不思議な人だ。

この日、寝るまでその人のことばかり考えていた。

これが出会い！？ 3

突然ですが、あたし水川葵^{みずかわあおい}。高2の17歳。自分で言うのも変ですが一応喧嘩強いです。その所為で沙羅に男っぱいって言われる。

その通りだと思います。スカートとか女の子っぽいものを身につけられない。

そのかわり沙羅は喧嘩の時はすごく汚い言葉使ってるけど、普段は普通の女の子。恋だっしてて...らしい。

らしいってのはあたしたちは『こいばな』しないから。あたしが恋に無関心で沙羅の話をきちんと聞いてあげれない。

『恋に無関心すぎる』って沙羅が呆れていた。

でも、本当に恋ってよく分からない。

次の日、
昨日買ったドーナツを食べながら沙羅と登校。沙羅と毎日のように一緒に登校している。

沙羅と214の教室に入り、自分の席に向かおうとした時

「お前らなんで顔に傷あんの？ナンパしようとしてたんじゃねーのかよ」

「ナンパしてたけど、うまくいなくてさあ最後に声かけた女に殴られた」

「ぶっはは。女に殴られたのかよ。だっせえ」

「うるせー。それに俺等みたいなやつはナンパとかしか出来ないって言うてたし…今度会ったらタダじゃおかねえ。なっトキ」

「俺はパス。章太、一人で行つとけ、もう殴られたくない」

ここの生徒、ナンパやら何やら普通にやってる。どんな学校だよ。

……？…昨日ナンパした女に殴られた？『俺等みたいなやつはナンパとかしか出来ない』？

…あれ？そういえば昨日ナンパしてきた男、殴った。『ナンパとかしか出来ない』ってあたし言ったような言わなかったような……

もしかして？

そう思い、声のする方に目を向ける。

口の近くに血つばい赤いのが付いてて短髪の男が二人いた。

昨日の人たち？

「何、怖い顔してるの？」

「あつ沙羅」

「なになに〜恋でもしちゃったかあ？あ、お、いちゃん！」

「違っつて！…昨日さあナンパしてきた男、殴ったじゃん？もしかして……」

「もしかして？」

「ほら、やっぱり」

『もしかして…あの人たちじゃない？』と言おうとした時、‘あの
人たち’があたしたちの前までやってきていた。間違いなく昨日の
二人だ。

「覚えてる？昨日のさあ」

すると沙羅も気づいたらしく

「あー！」

「昨日はどうもっ、って言うことでちょっと来い」
笑ってるけど、目は笑ってない。

さっき二人と話してた人たちがヒューヒューと言っている。

嫌だっと思ったらもつと面倒なことになりそうと思ったあたしたち
は素直に二人に従い、ついて行った。

着いたところは誰もいない相談室だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4719n/>

晴れの日と雨の日

2010年12月4日13時50分発行